

2020 年度 公開シンポジウム

コロナ状況下において学校は対話的な学びをどう展開していくのか
——子どもたちの成長を支えるために教育心理学が貢献できることは——

企画	：日本教育心理学会 研究委員会
話題提供	：高橋 幾（早稲田大学大学院教育学研究科） 教室に生起している子どもや学級集団の変化
話題提供	：長 しのぶ（福岡県糟屋郡篠栗町立篠栗北中学校） 学校全体の健康教育・養護教諭の視点
話題提供	：井原啓裕（大阪府柏原市立玉手中学校） 学校行事を展開する上での工夫
話題提供	：富崎直志（大阪府大阪市立橘小学校）・ 藤倉憲一（太成学院大学） 学習指導に及ぼす影響
指定討論	：河村茂雄（早稲田大学） 学校・学級経営の視点から
指定討論	：田島充士（東京外国語大学） 学習心理学の視点から
指定討論	：牧 郁子（大阪教育大学） 学校臨床の視点から
司会	：河村茂雄（早稲田大学）

企画趣旨：

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界規模で、社会全体が未曾有の困難に直面している。将来の見通しがつかない不安に直面している今、本学会の構成員が、それぞれの強みを活かし、次世代を担う子どもたちを支えるための知恵を絞るべき時と考え、子どもたちの「主体的・対話的で深い学びを支える教室」という視点から検討する場を企画した。本シンポジウムではまず、子どもたちの成長を支える教員や支援員の方に、子どもの心身に今、何が起きているのかについて報告してもらい、この危機的な事態を切り抜けるためのアイデアを提供していただく。その上で、教育心理学を専門とする河村、田島、牧が、それぞれの専門の視点からコメントを行う。本シンポジウムへの参加を通し、参加者一人ひとりがそれぞれの実践の場において、子どもたちの成長を支えるための知恵を引き出すきっかけになればと願う。